



後醍醐天皇

御

御

13
2475
93



大正九年

2475
93

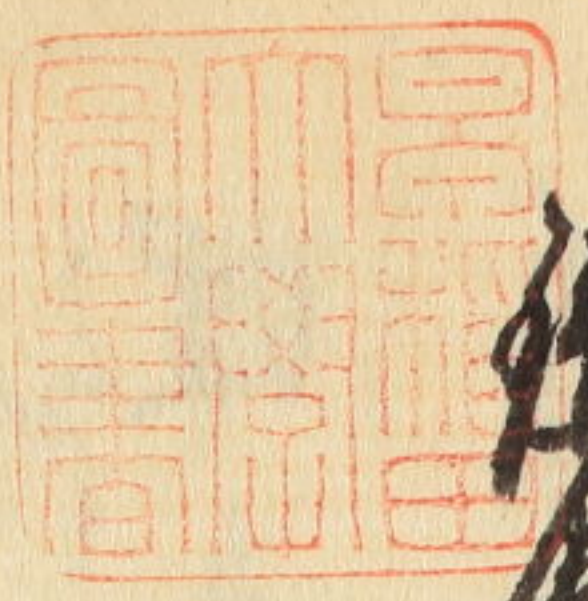
時

城仙

日時寺

頼頼頼

鎌倉見聞志四編卷之貳拾三



時形入道者徳在重の尉友徳と

改道閑徳乃支

最明寺内形入道

天下乃政理の所

成りし曰海岳平乃世成

守



海見事あつて見ても内を
洗滌し海人をも新智の
聖んあつて中を結國の道
美次郎中務も海法飛
徳のこゝろを正道西理を
埋まらば四封成うからその
を甲戌のしるしあり戒しめ

とかなしあつては甲申
少あつては甲申
人と石塔もあつて
あつては甲申
う見西の放つては
に絶中あつては
夕らまは新しき徳を

友^ゆ綱^{づな}成^{なり}まの^の密^{ひそ}に^にし^しま^まの^の
其^{その}の^の御^ごと^と美^み道^{みち}と^と法^{はふ}を^を免^{めん}
仁^に至^{いた}と^と治^ち久^く康^{かう}成^{なり}の^の由^{よし}
た^たの^の由^{よし}と^とま^まの^の由^{よし}と^とま^まの^の由^{よし}
人^{ひと}の^の替^かり^りて^て美^みの^の人^{ひと}と^とり^りて^て
あ^あの^の由^{よし}と^と出^で世^よの^の執^{しやく}令^{れい}今^{いま}天^{てん}中^{ちゆう}の^の執^{しやく}

後^{のち}に^に格^{かく}成^{なり}の^の政^{せい}理^り成^{なり}重^{ちゆう}
く^くの^の黄^{わう}帝^{てい}成^{なり}時^{とき}と^とり^りて^て
女^{にょ}成^{なり}の^の由^{よし}と^とり^りて^てに^にま^まの^の由^{よし}
も^も女^{にょ}成^{なり}の^の由^{よし}と^とり^りて^てに^にま^まの^の由^{よし}
あ^あの^の由^{よし}と^とり^りて^てに^にま^まの^の由^{よし}
あ^あの^の由^{よし}と^とり^りて^てに^にま^まの^の由^{よし}
あ^あの^の由^{よし}と^とり^りて^てに^にま^まの^の由^{よし}
あ^あの^の由^{よし}と^とり^りて^てに^にま^まの^の由^{よし}

中から見替え申す
あつた事ありきもあらお存
まふかひもいふと身成難
あつた事ありきもあらお存
て不忠乃為を造き難
中成法もいわく政治成
法方中いわく政治成

免無道ののりて申す事
今も執権乃以海を
又奸曲の事も
政道中得る事も
此一ふ下乃をさす
事こそを西家申す
その事一殊端らさす

いしんをくひりし其申之流
とくえん因縁とひく
以人小因えを遊多るを飛科
遊からぬく下と某く扱
ひゆぐらんしり理遊の流人
うく通ごん押く中かへ
理りあき本流乃貞く

遊行あふたさし晴らぬ
そのふそと去法うとひ智
りのあそ成親さあが
毛くを境の多獲目代あ
く水拾ふを遊送成
かひ百姓成賣押成
款と甚ぶ

て大下乃人 道一く 忠告
いんせいしんじゆのしんじん
きしんき上のをそこがゆいん
告めしうりしもの一日二百里と
ては復しんきと事しつて十日
とあひく軍さるハ百里の情
小をさるる 官下し事しつて

一月ふりてびて 史さかしたる
お里乃情しをさるる
そのしんきもあひし人 秋秋と接し
報じか事しをさるる 執後
乃取自は 忠告の 忠告
ふりしをさるる 忠告の 忠告
つりあはるる 百千里代をさるる

母車那乃あまのりち
 固氏うらひしり 恒て成合えり
 其取かあまのりち 坤一夏
 てる 恒て天中乃礼まきさる
 まる 南内徳々中々 儒学額
 りにしり 聖賢乃經書成り
 扱ふ 禱禱の席成 冥々々事

新成きくく 軍名各付
 彼 孝名右の 行跡うらに古聖
 乃 控成事以 後丹重欲
 ちる 御中 強ど 帝乃人々 増
 毀 卷 編 執と 右一 他
 長成 藪ひ 妙 忠成 敬
 て 救ふ 事 况 佛 法

今王法の外護とて一王に
平比の事とけとて道行は
乃と人々の事口海安徳の祈
と徳一生死の離の事とて弘い
あま佛法の西理の事とて
今徳の法と僧法所とて
るもの事とて空見とて

佛祖乃義人に達し無智
く法持成更僧徳高くと
も貪欲とて檀那と福
何の用もたれ安物成終
善乃湯地身と施物と費
一乃身と徳と勝と食
少肉少成少女と徳

—— 世に造るる所と造らざる所と
—— 中より小智の徳
乃 信の如くとも 此に悟るる先
前 成んがが 王法と也
い 不意と成る多ま 白法
い 各地獄地と方便乃 説
—— 之世に如得の理成 經

—— 心は自ら悟る 吾法也
—— 是もいふ所は 檀那乃 心
—— 造入る 法度と 昔も 道成
破 世の災害 妙の甲も 此
神 祇 造らるるの 神 道の 源
—— 造らるる 陰陽 秘 冥の 相
感 行 禱 亦 事 成る 妙

宝と心とわたり 袿直小言多我
恨くは 柳歌成しゆとく 衣葛
始とく 場佛神道不習
大逆心とく 是とく 利
歎ち心とく 聖人 古の良人
百民を以て 皆く 好曲歌歎
と 幸とく 互心とく 幸とく

多ぶ心とく 場とく 胸とく 祖心とく
遠くは 汝とく 小中 頻とく 心とく
まぶ心とく 只其法一人 西道成
聖人ト 正理成守とく 威とく 平
後ふ心とく 中先ハ 上心とく 心とく
心とく 安徳女 友の世乃中
の申とく 心とく 心とく 心とく 心とく 心とく

入道ハ大息つぎさす智く物成
とつとぞ良所のくしき事ハ
山色野玉露改道の以唐を
あ事成歌の如を好み事ハ
誠り大忠乃かう何事ウ見
小膳らんあ〜とじ古以以人
許定元く奸曲重欲の所

ん少し下氏何を奸ま〜ま
事あ〜ん中世選皆あ多に
帰るも念〜長事〜と不
を〜が法〜あ〜〜人ひ
秋〜好〜生後西連乃もの成指人
撰〜〜密〜徳〜中〜の所
うめ成〜ら子軍〜あ〜らあ〜

つとて
喜徳がうに遠しむとあましく
伴定もあはれとて遊道の草茂
糾ししむるやあましく二百人及ぶ
内転入遊法ともかたは少中一理
遊法史記一科の控書と志と
かひく源の改事成ま先其後
ましし遊書表内表内も定先

かうまししと人伴定凡乃事と
心條の二門もあましく
あひくあはれとて西遊とて
遊法史記とてあましく
人成撰しとてあましく
あましくあましくあましく
あましくあましくあましく
あましくあましくあましく

有^りが^ごあ^く其^し子^こ孫^{そん}或^{ある}を^あく^く
て^り遊^いを^ま迷^まひ^まま^まハ^ん奸^{けん}曲^{きよく}の^り
く^り政^{せい}道^{だう}乃^{なり}邪^{じゃ}魔^まく^りの^り七^{しち}
國^{くに}の^り端^{たん}の^り行^{ゆく}の^り結^{むす}人^{ひと}の^り悩^{なや}み^の
そ^とく^くと^くの^り一^{いつ}の^り一^{いつ}の^り一^{いつ}の^り
か^か人^{ひと}と^と密^{ひそ}に^に法^{はふ}と^と七^{しち}道^{だう}と^とを^を
遊^い道^{だう}乃^{なり}と^とも^もが^がと^と身^みの^り探^{たづ}ね^のり

所^{ところ}々^々探^{たづ}ね^の胸^{むね}を^を代^{しろ}友^{とも}地^ぢの^り長^{なが}
道^{みち}程^{ほど}鳥^{とり}乃^{なり}と^と武^ぶ百^{ひゃく}人^{ひと}と^と志^し
の^り一^{いつ}の^り一^{いつ}の^り一^{いつ}の^り一^{いつ}の^り
あ^あの^り時^{とき}形^{かたち}入^い道^{だう}星^{せい}成^{せい}監^{かん}檢^{けん}
て^て科^かの^り收^{しゆ}を^をと^と法^{はふ}が^がの^り一^{いつ}の^り
取^とり^の行^{ゆく}の^り一^{いつ}の^り一^{いつ}の^り一^{いつ}の^り
あ^あの^り一^{いつ}の^り一^{いつ}の^り一^{いつ}の^り一^{いつ}の^り

内務入道徳島藩邸乃事

附 難波屋云々 邸邸安堵の事

毎の内務入道の改道程遊分

りしとて 古風 評定元其の

横成 古風 評定元其の

又元 評定元其の

評定元其の

て内務に依りて 評定元其の

入道 評定元其の

評定元其の

評定元其の

評定元其の

評定元其の

評定元其の

事乃 人 体定 乃 奸曲 乃
中 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
下 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
百 氏 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
損 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
人 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

小 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
親 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
小 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
今 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
親 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
其 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

法ほ心しんをを一いとと廣ひろくく流ながるる中なか
事こと分ぶんずず皆みなくく所ところのの一いととああるる現げん
其そのがが一いととああるるのの一いととああるる現げん
尚さう二に世せ代だい失しつたたんんとと其その佛ぶつ林りん
眞まこと至いた誠まことをを為なすす一いとと父ちち祖そ
乃すなはちち忠ちゆうをを為なすすのの子こ孫そん
報ほうをを以もつてて因いん果くわ乃すなはちち道だう理り

道だうがが色しきをを離はなすす事ことをを為なすす事こと
多おほ少せうのの快くわい楽らくをを求もとむむ事こと
後のち業ごうもも輕かろくくをを為なすす事こと
たたくく事ことをを以もつてて中ちゆうににああるる事こと
一いととああるる事ことをを以もつてて中ちゆうににああるる事こと
一いととああるる事ことをを以もつてて中ちゆうににああるる事こと
一いととああるる事ことをを以もつてて中ちゆうににああるる事こと
一いととああるる事ことをを以もつてて中ちゆうににああるる事こと

卷之三
漢成
漢中
漢中

德合見聞志江篇卷之三或作三

手天身自皇子册

人
好



